

2025年度 入試問題分析シート

慶應義塾大学

経済学部

科目	数学
----	----

総括

試験時間	80 分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150 点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

例年通り、試験時間に対する問題量が多いが、基本的な考え方をもとに解き進めることのできる問題が中心である。出題分野も昨年とほぼ同じであり、新課程で数学Cとなったベクトルについても、空間図形に関連した問題が引き続き出題された。

〈特記事項・トピックス〉

[6] (1) では、放物線と直線で囲まれた図形の面積を「積分を用いて計算し、解答欄には積分の計算過程も書くこと」という指示があった。指示がなくとも積分を用いて計算するべきものではあるが、有名な図形であるがゆえに「面積公式」で求めようとする受験生に対して警鐘を鳴らすものと推察される。

〈合格への学習対策〉

教科書で学ぶような「基本的な考え方」が身につけていけば解き進めることのできる問題が中心であり、そのような考え方を定着させることと、確実な計算力を身につけることが重要だといえる。その上で、[3] で必要となるような丁寧な場合分けや、[5] で必要となる空間の把握については、本学部の過去問や類似の問題をじっくりと考え、手を動かす経験を積んでおくことが大切である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[1] (1)	選択 (マーク)	I・II	三角比・三角関数	2 倍角の公式や 3 倍角の公式を用いながら、三角形の面積や線分の長さを求めていくオーソドックスな問題。	やや易
[1] (2)	選択 (マーク)	I・II	1 次不等式・領域	絶対値を含む 1 次不等式を満たす整数 m, n の条件を、問題の誘導にしたがって場合分けして考えていく問題。領域の考え方をを用いるとわかりやすい。	やや易
[2]	選択 (マーク)	B	数列	数列の和から一般項を求めたり、一般項から部分分数分解により和を求めたりする問題。(2) で求めた一般項が $n \geq 2$ でしか成り立たないことから、(3) でも a_1 だけ分けて計算する必要がある。	標準
[3]	選択 (マーク)	A	確率	2 枚の硬貨を投げて、その表裏の組合せに応じて点が移動する。そのときの点の位置と確率を考える問題。(4) は場合分けがやや複雑だが、行うべき計算は条件付き確率の定義通りである。	標準
[4]	記述	II	微分・対数	x 軸と平行な直線と放物線の接線との交点の x 座標が 1 以下となる条件を考える問題。(3) (4) では対数の性質を用いて条件を書き直していく必要がある。	標準
[5]	記述	II・C	空間ベクトル	座標空間内の球面、平面、直線の交線や接線について考える問題。空間の問題ではあるが、一つ一つの処理を適切な平面上で考えることがポイントである。	標準
[6]	記述	II	積分・図形と方程式	放物線と直線によって囲まれた図形の面積や、2 交点間の距離に関する問題。(1) の「積分を用いて計算し」という指示に戸惑った受験生もいたかもしれない。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を 5 段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。